

簡単な補修工法 (取水施設)

取水施設および底樋管の補修

(1) 堤体との間に隙間がある

コンクリート構造物について、その基礎部分に空洞が生じている場合は、砂利や土で埋め戻します。



取水施設(斜樋)基礎下部の空洞発生



斜樋基礎下部の空洞

(2) 消防ポンプによる底樋管付近の泥土排出

底樋付近に泥土が溜まりすぎるとため池栓（ゲート）の開放ができません。この泥土を排出するため、消防ポンプにより排土を実施します。



2トン車に積載したモバイルポンプ



底樋管から泥土を吸引・排出



モバイルポンプ



下流水路へ泥土排出

(3) ゲートや巻上ハンドルの不具合



ゲート類の保守と管理

- ・部品の交換やさび止め等であれば、簡易に補修することができます。
- ・ゲート等の壊れている箇所を確認します。特殊な部品が必要な場合には、ゲート等対象施設のメーカーに問い合わせましょう。
- ・部品調達と交換が可能な場合には、簡易な補修として管理者で交換できます。ゲートのゴムパッキンの交換等も可能な場合があります。
- ・塗装の劣化がある場合には、再塗装を行いましょう。水性塗料を用いると溶剤が不要で手軽にできます。

- ・コンクリートの目地、表面の劣化調査



・コンクリートの補修目地補修、表面被覆

目地補修の場合

- ・コンクリートの目地には普通目地、伸縮目地の2つの種類があり、種類に応じた材料を使って補修します。
- ・目地補修を行う範囲の清掃を行います。古くなった目地材が残っている場合にはこれを取り除きます。乾いた状態で作業できない状況のときには、水中でも作業可能な材料を用意します。
- ・目地の隙間に目地材料を押し込みます。ヘラや固く絞った雑巾などで強く押し込み、幅が薄い場合には塗り込むようにします。
- ・補修完了後は、充填した目地材が固まるまで柵などで補修箇所を囲い、保護します。日にちをおいて状況を確認し、充填した目地に不具合が無いか確認します。

表面被覆の場合

- ・表面劣化して凹凸になっていたり、進行性ではない細かなひび割れがある部分の表面被覆を行い保護する工法です。表面被覆する範囲を測定し、必要な材料の量を確認します。表面被覆を行う材料は、入手や取り扱いが容易なポリマーセメントモルタルを用います。ポリマーセメントは湿潤な状態でも塗布可能ですが、水が染み出している場合には塗布できません。
- ・表面被覆を行う範囲をデッキブラシなどで清掃します。可能であれば高圧洗浄すると仕上がりがよいです。
- ・表面被覆材を塗布する前に、下地処理を行います。ポリマーセメントモルタルに対応した下地処理用の材料（ポリマー）を用います。
- ・ポリマーセメントモルタルを、左官小手等を使って塗布します。
- ・補修完了後は、塗布したポリマーセメントが固まるまで柵などで補修箇所を囲い、保護します。日にちをおいて状況を確認し、表面被覆状況に不都合がないか確認します。